オオバン

Fulica atra

我孫子市鳥の博物館友の会

No. 25

2005年7・8月

奄美大島探鳥行

首藤美恵子　イラスト 森元夏木

数年前に都内で行なわれた田中一村の美術展を見て、一村の美術館がある奄美大島に一度は行ってみたいと思い続けていました。

ガイドブックを求めて調べるうちにキャッチコピーになんと“いまだ手付かずの自然が残る東洋のガラパゴス”と謳われていました。きっと珍しい鳥もいるだろうなあ～と想像を膨らませ、今回とうとう友人を誘い行ってきました。行程は2泊3日です。飛行機運賃とホテルだけで45800円。島の中はバスもありますが、不便なためにレンタカーを3日間借りました。

1日目、小雨の奄美大島空港に11時３０分頃到着しレンタカーで行動開始、先ずは腹ごしらえ、空港から10分ほどの土盛海岸を見下ろす店で奄美名物“けいはん”を食べました。（けいはんとは鶏飯と書きご飯、トッピング、鶏ガラスープが別皿で出てくる。トッピングは、鶏肉、しいたけ、錦糸玉子などいろいろで、これらをお好みで乗せ熱いガラスープをかけて食べる。）雨も少し止み空港方面に3分ほど戻り大瀬海岸に行きました。この海岸を含め奄美の北部はサンゴ礁が広がり美しいところです。我々が着いた時は干潮でところどころに潮溜まりがありシギ、チドリが忙しそうにお食事中でした。

その後奄美自然観察の森に移動し、車から降りると頭上でけたたましく鳴くリュウキュウサンショウクイのお出迎えです。雨も上がりネイチャーセンターに寄って情報を聞き、外に出るとルリカケスがドアーの前に待っていました。この森の中で見たシジュウカラ、ヤマガラなど普通種はすべて亜種で、我孫子で見る個体に比べて“色が黒い”のが第一印象です。亜熱帯林が繁茂する中で黒い羽毛は身を隠す一つの手段なのでしょうか。

観光地への目玉として植えられたサクラの街路樹にたくさんの鳥が集まりサクランボを啄ばんでいました。ズアカアオバト、カラスバトに混じってシロハラが多くいるのには驚きました。地元の人に伺うと北に帰る通過鳥との事です。シロハラはこんな南まで来ているのですね。ホテル帰着は7時、その後島内ただ一つの市である、名瀬市街に出て奄美の郷土料理を頂きました。

2日目、出発前に鳥博の時田さんに鳥を見るポイントなどを聞きに伺ったら「我々でも初めての土地は案内人にお願いしますよ、どなたかに頼んだら」とアドバイスをいただき、この日はガイドブックからエイットばかりに選択しお願いをしました。朝7時にホテルに迎えに来ていただき夕方7時まで奄美をくまなく案内していただきました。この方には鳥だけではなく植物、昆虫も教わりました。島の中央部は亜熱帯広葉樹が生い茂り、奄美固有のシダ類の巨大なヒカゲヘゴなども見られます。またマングローブの原生林もあり南国を感じ取ることが出来ました。19時半に奄美にいる私の友人が迎えに来てくれて夜中の12時半まで、昼、夜とも食事に時間を割かれるのが惜しく、コンビニのおにぎりで済ましたが、思い残すことは無いくらい奄美の鳥を堪能しました。友人から我々を案内し

（3頁へ続く）

行事案内

•@【ホタルの夕べ】
期　日　７月３１日（日）
集　合　東我孫子駅前　午後７時
持　参　懐中電灯、虫除け対策
解　散　午後８時
案　内　我孫子野鳥を守る会と鳥博友の会共催で岡発戸谷津田のホタル鑑賞会を催します。約１時間ホタルを鑑賞した後、東我孫子駅前で解散します。
申　込　不要
担　当　染谷、小玉

【第２２回友の会講座】
離島探鳥行の報告
日　時　７月３０日（土）　13:30～15:30
場　所　鳥博２Ｆ　友の会ルーム
内　容
１．奄美大島・舳倉島探鳥行報告　　首藤美恵子
２．飛島探鳥行報告　西巻　実・中野久夫他
３．NHKさわやか自然百景「飛島」のビデオ観賞

会員の首藤美恵子さんは、今年の４月中旬に鹿児島県の奄美大島、５中旬には石川県の舳倉島探鳥に行かれ、西巻実・中野久夫等は有志１０名で５月上旬に山形県の飛島探鳥に行き、離島ならではの多くのめずらしい鳥を見てきました。その成果や現地の事情・交通手段、必要な留意事項などについて報告し、今後の離島探鳥行計画の参考にしていただきます。また、飛島探鳥時現地でNHKが撮影していた映像が、６月１２日（日）のさわやか自然百景で放映されましたので、そのビデオも鑑賞します。

第26回 役員会
日時　8月13日(土)　13:30～16:00
場所　鳥博友の会ルーム
議題　1．報告
　　2．9月以降の行事
　　3．会報「オオバン」No.26・27号の発行
　　4．その他

友の会展実行委員会
日時　７月２４日（日）　13：30～16：00
場所　鳥博友の会ルーム

鳥の絵教室

第８１回　　７月１６日（土）
第８２回　　７月２４日（日）
第８３回　　８月２０日（土）
第８４回　　８月２８日（日）

第３土曜日と第４日曜日、夏休みなしでがんばります。
９：３０～１２：００　友の会ルームで。
標本借用には予約が必要です。欠席等のため当日分を予約していない場合は、早目にはがきでご連絡下さい。（開催日前の水曜日必着、第３希望まで）
〒277-0921 柏市大津ケ丘2-31-8-106 青野 宏

鳥凧同好会

製作会合
期　日　7月2日(土)・5日(火)
　　8月6日(土)・9日(火)
時　間　13:30～16:00
場　所　友の会ルーム
鳥凧同好会では、各自独創的な鳥凧作りに挑戦し、展示したりイベントなどで凧揚げをして楽しんでいます。興味ある方は遠慮なく見学にお出でください。

デジカメ同好会

◆ 7月の会
富士奥庭、南アルプス邑撮影会
期　日　7月7日（木）、8日（金）
　　雨天実施
行　先　富士5合目奥庭、山梨県南アルプス邑野鳥公園
交　通　今井観光のマイクロバス
集　合　我孫子駅北口ロータリー午前7時
宿　泊　「ヘルシー美里」TEL 0556-48-2621
費　用　約20,000円。（8日の昼食は別途）
案　内　富士５合目の奥庭で目の前の水場にやってくる可愛いい夏鳥を撮影し、続いて南アルプス邑の野鳥公園でヤマセミとの出会い

を期待します。
持　参　観察・撮影用具、雨具、飲物（7日の昼食は奥庭で食べます）
申　込　諏訪哲夫まで（申込先着15名）
TEL　04-7188-7137
mailは tsuwabiko@jcom.home.ne.jp
担　当　諏訪哲夫

室内会
期　日　7月23日（土）9時30分～12時
場　所　友の会ルーム
内　容　富士奥庭、南アルプス邑撮影会他の作品発表と意見交換

◆ 8月の会
茨城県南部シギ・チ撮影会
期　日　8月6日（土）雨天の場合は8月20日（土）の室内会予定日に変更ただし行き先は別途相談して決める
交　通　自家用車に分乗して行く。同乗者は運転者に1,000円支払う。
集　合　我孫子市役所前　午前8時
案　内　茨城県南部水田地帯や干拓地で、シギ・チを撮影する。
持　物　撮影用具、雨具、弁当（途中のコンビニでの購入可）
申　込　諏訪哲夫まで。車を提供いただける方はその旨も。
TEL　04-7188-7137
mailは tsuwabiko@jcom.home.ne.jp
担　当　諏訪哲夫、中野久夫

室内会
期　日　8月20日（土）13時30分～16時
場　所　友の会ルーム
内　容　撮影会の作品発表他と意見交換
その他　撮影会が延期実施された場合、室内会は中止。

(1頁からつづく)
ていただいたガイドの方は彼達が3年いても遭うことが出来ない憧れのネイチャーガイドだったそうです。改めて素晴らしいガイド振りに納得いたしました。中には観光客相手のお粗末な方もいられるようです。

結局この日は二人とも地図に無い殆ど地元の人は使わない旧道を案内されました。友人には夜の調査に同行させていただき、夜行性の生物を観察しました。

3日目、この日は前日のガイドさんや友人から教えていただいたところと奄美自然観察の森に行きました。森では偶然巣穴製作中のオーストンオオアカゲラに遭遇しました。また夫婦で採餌中のアカヒゲにも出会いその後島に残る唯一つの水田地帯、秋名に出かけました。田植えがまだ終わっていない個所があり鳥が落ち着いていないせいかシマアカモズを見たのみに終わりました。

奄美空港19時発、羽田着20時50分で旅は終わりました。とうとう憧れの田中一村は見る時間が無く、又来る言い訳を残しました。

2泊3日ですが、帰着の飛行機の出るのが遅いために2日間は丸々探鳥することが出来ました。

観察した鳥
カイツブリ、リュウキュウヨシゴイ、アマサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、カルガモ、ヒドリガモ、サシバ、ハヤブサ、チョウゲンボウ、バン、オオバン、コチドリ、シロチドリ、メダイチドリ、ダイゼン、トウネン、ハマシギ、コオバシギ、オバシギ、アカアシシギ、アオアシシギ、イソシギ、オオソリハシシギ、チュウシャクシギ、アマミヤマシギ、カラスバト、リュウキュウキジバト、ズアカアオバト、リュウキュウコノハズク、リュウキュウアオバズク、ヒメアマツバメ、カワセミ、オーストンオオアカゲラ、アマミコゲラ、ツバメ、リュウキュウツバメ、ツメナガセキレイ、キセキレイ、ハクセキレイ、リュウキュウサンショウクイ、リュウキュウヒヨドリ、シマアカモズ、アカヒゲ、イソヒヨドリ、シロハラ、リュウキュウウグイス、セッカ、アマミヤマガラ、アマミシジュウカラ、リュウキュウメジロ、スズメ、ムクドリ、コムクドリ、ルリカケス、ハシブトガラス、以上58種
番外、アマミノクロウサギ、アマミアオガエル、イシカワガエル、ヒメハブ、リュウキュウアサギマダラなど、植物は省きます。

第２回鳥の博物館友の会展
作品参加募集要項

昨年はじめての試みとして開催し、大変好評を得ました「友の会展」を本年も引き続き下記要領にて開催することとなりました。

これは友の会の日頃の活動状況の報告や会員の鳥に関する作品、コレクションを展示することにより、一般の方々にも「人と鳥の共存」への理解を深めるとともに、人と鳥にやさしい自然環境づくりに関心を持っていただくことをねらいとするものです。

つきましてはこの機会に、会員の皆様の鳥凧・絵画・写真などの作品や、ご自慢のコレクション等を出品下さるようご案内致します。

下記募集要項参照の上、奮ってご参加ください。

記

主　　催　　鳥の博物館友の会展実行委員会

展示期間　　１０月１日（土曜日）から１１月２０日（日曜日）まで

展示場所　　鳥の博物館２階　企画展示室

出品内容　　鳥をテーマにしたものなら何でも可（但し、剥製・標本類は不可）

1. 会員の製作によるもの
　絵画、写真、鳥凧、カービング、クラフト

2. 会員自慢のコレクション
　鳥の民芸品、切手、置物、貨幣、音響等

応募方法　同封の参加申し込み用紙に、品目、内容、点数等ご記入の上、鳥の博物館友の会実行委員会宛郵送、FAX又はご持参下さい。
　住所　〒270-1145　我孫子市高野山234-3
　　FAX　04-7185-0639

応募期限　７月２０日（水）

搬入日時　原則として９月２８日（水）
　9時30分から15時まで
　会場までご持参いただくことになります。
　会場の関係で、出品点数等制限せざるを得なくなりました場合は後日連絡いたします。

搬出日時　１１月２２日（火）９時30分から15時まで
　会場まで引き取りに来ていただきます。

そ の 他
・取扱上特に注意すべき点がありましたらご記入下さい。
・保険等の付保が必要なものは各自お願いいたします。

問合せ先　我孫子市鳥の博物館
　電話　04-7185-2212

鳥のお客様

鳥の絵教室
野　口　幸　子

今年の我が庭は鳥のお客様が多い気がする。「気温の変化が激しいためか植物の花つきが良く、虫の発生も多い」との近所の噂である。桜も入学式に合わせたように開花し、その後我が家の大ハナミズキが咲き出し、花と戯れるスズメ、メジロ、ムクドリ、ヒヨドリ、シジュウカラ、カワラヒワなどの鳥たちがかわいい歌を聞かせてくれていた。

雌雄と思われるシジュウカラは３年前にヒマラヤ杉の枯株（高２m）に取り付けた巣箱や庭木の間を３月後半から飛び回っていた。そんな中、４月１９日、庭の芝生に長い眉線、喉斑が白、胸と足が赤茶、嘴は黄、背が濃茶で姿がツグミに似た鳥が歩行しているのを発見。更に２日後にも。1回１０分位観察した。図鑑によるとマミチャジナイそっくり。鳴声はツリリ・・・・とあり、近くでそれらしい声も聞けた。早速鳥博に問い合わせたら、越冬子育てに南北往復のとき、稀に日本列島を通る個体がいるとの答え。４月２４日鳥の絵教室で学芸員さんがその雌雄の個体を見せてくださった。すぐに私は雌と思った。

出会った鳥を描くのを鳥の絵教室参加目的としている私は、早速雌のマミチャジナイと向き合うことになり、楽しいけれど「苦心している最中である。一方、４月から５月にかけてシジュウカラが見せてくれた産室造り、抱卵、給餌等は家族の観察欲を駆り立てた。そして給餌・排泄物廃棄行動の回数が増えてきたなと思っていた矢先、６月１日朝８時頃巣立ちが始まっているのを夫が発見。２羽の巣立ちを確認できた。約１時間半かかった。雛の行動が活発でないので私でも写真が撮れた。今は絵にもして見たいと思っている。剥製たちにまたお世話になります。

行事報告

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

北新田･ゆうゆう公園探鳥会

4月30日(土)　中野久夫

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

午前８時半、市役所前に総勢１７名（会員：１２名、鳥博：時田学芸員他２名、市公園緑地課：２名）集合し、車４台に分乗して北新田に向かった。

風もほとんどなく絶好の探鳥日和である。北新田は田植えの最盛期で、あちこちで行われている作業の邪魔にならないよう道を選んでまわった。

今年のムナグロの渡りは例年より早く、すでにピークを過ぎていたがそれでも３００羽以上見られた。キョウジョシギ･キアシシギは少なくそれぞれ１羽見られただけだった。しかし、最後に回った北東端の田で十数羽のムナグロの中にきれいの夏羽のオグロシギ１羽、すぐ隣の田で１０数羽のチュウシャクシギの群が見つかり、みんなを楽しませてくれた。

この後、最近整備されたばかりの利根川ゆうゆう公園の自然観察ゾーンに向かった。市公園緑地課の方がこちらでも一人待っていて、運動公園よりのゲートを開け車を中に入てくれ、広い観察ゾーンを上流側から車で移動しながら見てまわることができた。

Ａ～Ｅ５箇所のウォッチング広場があり、ハイドと案内板が設置されており、それぞれをつなぐ観察路も整備されていた。

最上流側にある流れの草地ビオトープのウォッチング広場Ｅでは、湖北中学校の生徒たちが盛地にコアジサシを呼び寄せるためデコイをおいていた。ぜひこの試みが成功し、コアジサシきて営巣・繁殖してくれることを期待したい。

まだ自然観察ゾーンは整備が終わったばかりで、見られた鳥は草地のヒバリと流路のコガモ以外はわずかであった。しかし、これから草が伸び環境が整ってくると、いろいろな鳥がやってくることが期待できそうで、これから定期的に観察し記録をとっていく必要があると思う。

〈認めた鳥〉カイツブリ、カワウ、アマサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、カルガモ、コガモ、ヒドリガモ、チョウゲンボウ、キジ、バン、コチドリ、ムナグロ、キョウジョシギ、キアシシギ、オグロシギ、チュウシャクシギ、キジバト、ヒバリ、ツバメ、ハクセキレイ、タヒバリ、ヒヨドリ、ツグミ、ウグイス、オオヨシキリ、センダイムシク
イ、セッカ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス　　計35種

〈参加者〉 野口幸子、西巻 実、井上 正、田中　功、安野昌彦、吉田隆行、諏訪哲夫、小野勇亮、小野史子、木村 稔、染谷迪夫、中野久夫、鳥博：3名、市公園緑地課：3名　　計18名

デジカメ同好会
霞ヶ浦撮影会
4月16日（土）　中西榮子

４月１６日霞ヶ浦撮影会に参加しました。朝８時に市役所前に集合。総勢１６名が４台の車に分乗し出発。土浦市内のコンビニと霞ヶ浦の公園でトイレ休憩し現地にむかいました。１０時半頃現地到着。中野さんが事前に確認してくださった所にツルシギの姿が見られなかったので皆で手分けして探しました。しばらく探しハマシギを撮影していましたが車を止めた所よりかなり西の方（土浦市沖宿）に７羽のツルシギの姿を確認し皆で心置きなく撮影することができました。下嘴と足の赤がとても印象的なツルシギ数羽がどんどん近づきその美しい姿を見せてくれたときは、とても感激しました。中野さんが事前に下見で確認してくださった所（戸崎）にも２羽のツルシギの姿がありここでもまた撮影することができました。

しかし、ハス田に張られたネットにカモやオオバンが足を絡ませ、なかにはまだもがいている生々しい姿もありなんともやりきれない気持ちになりました。せめてこの網に目立つ色をつけ鳥達にわかるようには、できないものかと思いました。

その後、国民宿舎水郷のレストランで昼食、浮島に向かいました。浮島ではムナグロ本新でセイタカシギの姿を確認し浮島で現地解散しました。

きめ細かな準備をしてくださった中野さん、安全運転をしてくださった岡本さん、井上さん、児玉さん、安野さん、参加された皆さんありがとうございました。

参加者　中野久夫、中西泰三、中西榮子、岡本信夫、吉田隆行、安野昌彦、村上 稔、西巻 実、諏訪哲夫、井上 正、田中 功、大久保陸夫、小玉文夫、山本貞江、フレット・ツィヒェマン、マーレンツィヒェマン　　計１６名

デジカメ同好会
都民の森撮影会
5月14日（土）　諏訪哲夫

5月から中野さんの後を引き継ぎデジカメ同好会の世話役を仰せつかった諏訪です。不行き届きの点もあろうかと思いますがよろしくお願いします。

前回（一昨年）は出会えなかったコマドリに今年こそはと勇んで車3台に分乗して我孫子駅北口を6時15分に出発。途中渋滞もなく現地に到着しました。　前回は雨模様でしたが今回は霧模様ではありましたが撮影には支障はなく、三頭山をコマドリのポイントを目指して登りはじめました。

途中でミソサザイがすぐ近くに出ているポイントがあり、全員ここで先ずシャッター慣らしをしました。結構動きが速く、近くで盛んに囀るのですが姿をなかなか見せないので皆さんかなりてこずりました。

続いて山道を登り、コマドリのポイントに到着しました。しばらく粘りましたが姿どころか囀りも聞こえず、今回もまた空振りに終わりました。

やむを得ずミソサザイのポイントで再度挑戦した後森林館に戻り、昼食をとりました。

午後は奥多摩湖に回りました。前回はダムの所で営巣しているイワツバメを沢山見ることが出来ましたが今回は巣だけで姿は1羽も見ることができませんでした。そんなこんなで今回の撮影会は冴えない結果になってしまいました。ごめんなさい。

帰路も順調で無事我孫子に到着しました。車を出していただいた井上さん、村上さん、安野さんに感謝します。今回はチヒマンさんご夫妻が初参加していただきました。これに懲りず次回以降も是非参加してください。

(参加者)
ツィヒェマン夫妻、井上　正、田中　功、中野久夫、中西栄子、西巻　実、村上　稔、安野昌彦、山本貞江、吉田隆行、諏訪哲夫
計12名

トピックス

このところ北新田にはいろんな珍しい鳥が訪ねてくれるようになりました。コウノトリ、シベリアジュリン、そしてこのシマアジ。渡りの途中でしょうか。5月1日、2日と束の間の羽休めでしたが、仲間の目を楽しませてくれました。近くにはチュウシャクシギやセイタカシギもいました。(0)

Photo:岡本信夫

デジカメ同好会
室内会
5月28日（土）　西巻　実

今回から友の会ルームが新しくなり、いままでの体験学習室に代わった。映写スクリーンも映写専用で大きくなり、何より映写が明るく美しくなった。ありがたい。

[映写]
各自の作品を映写。吉田さんの田植えした田にムナグロの群れが散らばったところを俯瞰した写真が美しい。田中さんのキバシリの幼鳥に両親が給餌している写真は珍しい。

[友の会展　諏訪さん]
諏訪さんの案により昨年同様に、写真展示、スライドショウ、デジスコ体験の三本柱とし、昨年の担当もそのままに実施する。当然昨年の欠点は改める。

[7月の撮影会　諏訪さん]
山梨県早川町の野鳥公園のヤマセミと富士山奥庭荘に行くが、当初14-15両日を予定していたが守る会の１７日の白根山と近すぎるので、７－８日(木－金) に変更する。遠いのでバスをチャーターするから１５名くらいは参加が必要。。

[写真展示を変更　中野さん]
毎月の展示は続けるが壁面に余裕があるので、A4　2枚ではもったいない。増やすことを考える。

[参加者]　井上正、田中功、吉田隆行、安野昌彦、諏訪哲夫、松田幸保、中野久夫、西巻実、
計８名

鳥博体験学習イベント情報
　フロアスタッフと遊ぼう

　身近な材料で簡単に遊べ、誰でも参加できる工作イベントを６月２６日から８月下旬まで週替わりで６つのプログラムで開催します。夏休みの自由研究のヒントにもなります。ふるって参加しよう！

内容日程　　下記参照
時　間　午前１０時３０分から
　　午後１時３０分から
　　（各30分程度で同内容）
場　所　鳥の博物館
　　２階多目的ホール
参加費　無料
申込み　不要
問合せ　鳥の博物館
　　7185-2212
内容・日程
＊貝あわせをつくろう
　7月17、27日、8月7、24、28日
＊バードコールを作ろう
　7月2、23日、8月13日
鳥笛を鳴らそう
　7月3、24日、8月14日
ストローで竹とんぼを作ろう
　7月9、30日、8月20日
鳥グライダーを飛ばそう
　7月10、31日、8月21日
傘袋で飛行機を作ろう
　7月16日、8月6、27日
鳥の羽でブローチを作ろう
　7月17日、8月7、28日
＊紙皿で鳥をつくろう（ケッツアールを作る）いつでも作れます。
＊印の内容は今年から加わった新しいプログラムになります。貝あわせについては、鳥の博物館友の会会員の森元夏木さんに御指導していただきます。

質問箱

Q. 庭に巣箱をかけて鳥を呼びたいのですが、どうしたらいいのでしょうか？

A. 私たちに身近な鳥で、よく巣箱を利用するのはスズメ、ムクドリ、シジュウカラです。これらの鳥が、どんな巣箱を利用するのか考えてみましょう

　巣箱の大きさは鳥の体が収まりさえすればよく、好みが厳密に決まったものではありません。むしろ、巣穴の大きさが大事です。大は小を兼ねるという訳にはいきません。大きな鳥が小さな鳥の巣箱を乗っ取ってしまうからです。その鳥が入ることが出来るギリギリの大きさの巣穴が、その鳥にとって最も安全な巣箱です。

　以下に身近な鳥が好んで利用する巣穴の大きさと巣箱の大きさの目安を一覧しましたので、巣箱を作るときの参考にしてください。

　作った巣箱を架ける時には、次のようなことに注意しましょう。

　巣箱は冬に架ける

　巣穴の前方が開けた、枝の無い幹に架ける

　巣箱をやや下向きにしっかり固定する

　そのほか巣箱を架ける高さや方角は、環境によってさまざまでとくに決まってはいません。ちょっとしたいたずらを避けることができるように、地上3m前後を目安にするとよいでしょう。

　鳥の姿が見られる場所で、以上に注意して巣箱を架ければ、きっと利用してくれるはずです。私たちのまわりには、鳥が利用できる木の洞は、それほど多くありません。上手に架けられた巣箱は、鳥たちにとって魅力的な営巣場所になるはずです。

表　巣穴の大きさと利用する鳥の目安

種類	巣穴直径cm	高さcm	幅cm	奥行きcm
スズメ	3	18 ～ 25	15	15
ムクドリ	4 ～ 5	30	17	17
シジュウカラ	2.8 ～ 2.9	18 ～ 25	15	15

鳥博からのお知らせ

◆手賀沼定例探鳥会「てがたん」

期　日　７月　９日（土）
　　８月１３日（土）
集　合　鳥博玄関前午前１０時　正午解散
内　容　鳥の博物館周辺を散策しながら鳥や昆虫、植物などを観察します。毎月第２土曜日に行なっています。
参加費　無料
持参品　双眼鏡（お持ちの方）　筆記用具
申込み　不要　雨天中止

◆鳥の博物館あびこ自然観察隊
　－セミの羽化をみてみよう－

鳥の博物館では,我孫子の身近な自然を訪ねる自然観察会を開催しています.

今回は手賀沼公園でセミの羽化を観察します.観察に先立ち室内でセミに関する楽しいお話もあります。小・中学生から大人まで楽しめる，やさしい自然解説です.「しらべ学習」や自由研究にも役立つ観察会です．ぜひ，ご参加下さい.

日時・場所　７月３０日（土）午後６時３０分から８時ごろまで（雨天中止）
集　合　６時３０分までにアビスタ玄関前集合
指　導　鳥博市民スタッフ・鳥の博物館友の会・職員
対象・定員　先着４８名（小・中学生は保護者同伴）
持　参　懐中電灯，筆記用具，必要な方は虫よけ
参加費　無料
申込み　電話で鳥の博物館　7185-2212

【鳥の博物館の休館日】
７月　４日（月）、１１日（月）、１９日（火）、２５日（月）
８月　１日（月）、８日（月）、１５日（月）、２２日（月）、２９日（月）

事務局からのお知らせ

◆原稿募集

会員の皆様から原稿を募集します。鳥に関するエッセイ、詩歌、イラストその他ジャンルを問いません。また、鳥に関する質問や本紙に対する要望などもお寄せください。親しめる紙面作りのため皆様の投稿をお待ちしています。

原稿送付先
〒270-1164我孫子市つくし野3-7-105　岡本宛
FAXは 04-7184-6024
Emailは okamoto.n@jcom.home.ne.jp

◆会員数

6月15日現在の会員数は145名（家族を入れると212名）です。

編集後記

３か月間も私達の目を楽しませてくれたコウノトリが北新田を後にしてから３ヶ月たちましたが、開催中の企画展・２度の鳥博セミナーと余韻は収まっていません、これがきっかけで人生が変わってしまった人?のためにも又、ぜひ来て欲しいものです。会員の間では今年はちょっとした離島ブームになっているようで、その報告が友の会講座で聞けることとなりました、お話と映像が楽しみですね。（M）

オオバン　２５号　　2005.7.1発行
発　行　我孫子市鳥の博物館友の会
発行人　笹川昭雄
編集人　梅村康之　松田幸保　岡本信夫

事務局　中野久夫
〒272-1145　我孫子市高野山234-3
我孫子市鳥の博物館内
TEL 04-7185-2212　FAX 04-7185-0639
会費　小中高学生会員 1,000円　一般会員 2,000円
家族会員 3,000円　賛助会員１口 10,000円
振替　我孫子郵便局　口座00160-8-36727
我孫子市鳥の博物館友の会